



2006年1月31日

日本応用心理学会ニュースレター

——コミュニケーションの広場——

No. 14

日本応用心理学会第73回大会のご案内

大会準備委員長 柏木 恵子

日本応用心理学会第73回大会を文京学院大学でお引き受けすることになりました。開催日時は、2006年9月9日(土)、10日(日)の2日間です。場所は文京学院大学本郷キャンパス—東京メトロ南北線の東大前駅から徒歩1分—で開催いたします。

今回の大会は、メインテーマを『少子高齢化と心理学』としました。準備委員会では、現在、このメインテーマに沿って、公開シンポジウムを含む複数を企画しておりますが、会員の皆様のご発表伺わせて下さい。

さて、今回の大会では、いくつかの側面で、従来の大会のやり方に変更を加えております。まず、発表形式を、ポスター発表、ワークショップ、シンポジウムの3つに絞りました。個別発表は口頭発表をやめ、すべてポスター発表にいたしました。それは発表に対する質疑応答さらに議論をより密にしたとの願いからです。そのために、ポスター発表の形式も、午前中にポスターの掲示を行い(その間いつでも見ることができる)、午後は発表者が在席しポスター発表について質疑応答を行う機会としました。

こうした発表形式をあえて試みました理由は、研究発表の場をいかに充実したものにしていくかを考え、多数の企画と多彩な提案から、今後の心理学の応用領域を考えるために少しでも貢献できればという思いからであります。



これらの提案が大会運営にどのように作用するかは、会員の皆様のご理解とご協力にすべてがかかっているかと思われま。われわれの主旨をご理解の上、多くの会員の皆様による積極的なご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

大会の目玉となる公開講演は、京都大学・霊長類研究所の松沢哲郎先生をお招きし、チンパンジーの研究を通して得られた研究成果についてご講演をいただく予定です。松沢先生のチンパンジーとの長い生活と研究が、ビデオと先生の活々とした語りでお伺いを期待しています。

(文京学院大学大学院教授)

目次

日本応用心理学会第73回大会のご案内	国際交流委員会報告	長塚 康弘	5
.....柏木 恵子	日本応用心理学会第72回大会に参加して間 喜	5
第72回大会を終わって.....星野 仁彦	日本応用心理学会第72回大会に参加して杉村 正子	6
2005年度日本応用心理学会名誉会員.....	研究室紹介「文京学院大学」.....松田 浩平		6
2005年度日本応用心理学会学会賞・奨励賞に	2005年度「公開シンポジウム」南 隆男, 大橋 信夫	7
ついて.....垣本由紀子	第72回大会公式記録.....準備委員会		8
認定「応用心理士」認定審査委員会からのお知らせ			
.....馬場 房子			
研修委員会報告.....林 潔			
倫理委員会からのお知らせ.....藤田 圭一			

第 72 回大会を終わって

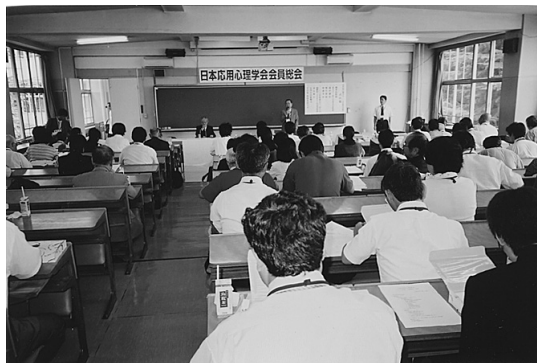
大会会長 星野 仁彦

2005 年 9 月 3 日、4 日の両日、第 72 回大会を福島学院大学で開催しました。その前日 2 日夜は、大会前日としては、初めて理事会を開き、3 日の会員総会に諮る議題を審議しました。大会初日の昼、会員総会の終わりごろから突然の天気急変で午後のプログラムの時間を繰り下げる等のハプニングもありましたが、2 日間の予定は滞りなく終わりました。今回の大会には、事前予約の 166 名に加え当日申込みが 40 名を超えて 210 名余りの参加者がありました。このほか一般公開の講演会、シンポジウムには市民の参加もあり、地域に開かれた大学の役割を果たすこともできました。今回の大会テーマは「地域福祉に果たす応用心理の役割」でしたが、本学の福祉学部福祉心理学科の特色を少しでも多くの人に知ってもらいたいという意図は果たすことができたと思います。

特別記念講演は、発達心理学、家族心理学の第一人者である文京学院大学大学院教授柏木恵子先生による「発達・家族の心理学と地域福祉—地域子育て支援の理論と、そして提案—」の演題でした。今日、声高に叫ばれる家族崩壊と少子化の問題からは安直な「子育ての社会的地域支援」しかもたらされない、という警告が発せられ、これまでの豊富な調査データをベースに家族発達心理学の観点で説明がなされました。そこではとりわけ日本の男性の発達問題を中心にその生き方を示唆されました。

また、特別招待講演では現代学生の問題に通暁する獨協大学の瀧本孝雄先生にお願いし、「大学生とメンタルケア」の演題で学生の自己認知、他者認知の調査結果をもとに現代学生の悩みの構造を明らかにした話でした。日米のカウンセリング・センターの実態調査から今後の大学生のメンタルケアに関して大学、学生部、学生相談室等がどのように対応していけばいいかについて提言があり、いまやロジャーズ流のスタイルだけでなく教示的スタイルも取り入れた相談がより必要になってきた感じがするという取りまとめでした。

公開シンポジウムでは、現在、社会的現象にも取り上げられるほどとなった「血液型性格判断、ホントかウソか」をテーマに開かれました。第一人者である日本大学名誉教授である大村政男先生をはじめ藤田圭一先生（日本体育大学）、浮谷秀一先生（東京



富士大学)、荒木英幸先生（福島民報社文化部長）に加えて小生もパネラーにさせていただき開催しました。11 年前の城西大学での第 61 回大会でも本テーマが論じられましたが、それ以後、血液型と性格との関連はブームと沈静化を繰り返しております。今回のシンポジウムでは、心理学者のほかジャーナリストや精神科医といった多彩なメンバーによる意見交換が行われ興味深い内容となりました。

もう一つの公開シンポジウムである「福祉現場におけるメンタルケア」では、本学の教員のほか精神保健、社会福祉、介護福祉といった現場での実情と問題点をパネラーから提議してもらいました。本学のメンタルケアの中心的役割を担っている安田道子先生が司会者となり、話題提供者に NPO 法人を立ち上げて介護福祉を実践している須田弘子先生（まごころケアホーム高湯の里）、本学の品川満紀先生、藤原正子先生、指定討論者として南隆男先生（慶応義塾大学）、本学の本田久市先生が参加して活発な意見を交わしました。

また、公開パネルディスカッションでは「地域で取り組む自殺予防の諸条件」をテーマに本学の梅宮れいか先生が司会者となって精神保健の専門家畑哲信先生（福島県精神保健福祉センター）、自死遺族の

立場で金子久美子先生(れんげの会)、心理相談の専門家玄永牧子先生などによる真剣な討議がなされました。地域において自殺予防の文化をどのように構築するか、地域全体の自殺抑止効果はどのようにもたらされるか、といった視点での意見交換も行われました。

ワークショップでは、本学の若手教員が中心となって専門分野を分担して進められました。桃井真帆先生、大島典子先生と私3人による「軽度発達障害の思春期・青年期の二次障害をめぐって」と、もう一つは伊藤嘉余子先生、藤原正子先生による「日英ソーシャルワーク教育カリキュラムについて」のテーマでした。いずれも今回の大会テーマに関連させながら地域福祉と応用心理の接点を模索したもので、本学で掲げている福祉心理学の研究を深めていく第一歩にしたいという意味も込められていました。

自主シンポジウムは、東京福祉大学グループの近藤敏明先生、手島茂樹先生を中心に「臨床心理学とコミュニティーサービス」のテーマで展開されました。ここでは、大学と地域の小・中学校との協力やカウンセラーの関与の仕方などといった今日的課題について活発な意見交換が行われました。

今大会で第4回となった学会研修会は、名誉会員である福原真知子先生から「マイクロカウンセリング」、大久保康彦先生から「応用心理学の道程を歩んで」というテーマで学習しました。参加者も70名近くで盛んな集まりでした。講師のお二人のこれまでの研究成果を次の世代にどのようにつなげていける

かも含めて意義深いお話を聞くことができました。

今回の大会発表論文は、口頭発表が41、ポスター発表が56で合計97でした。口頭発表、ポスター発表とも各会場で熱心に議論されて参加者の高い学習意欲がみなぎっていました。

第1日目(3日)の夕方には、会場を福島駅近くの福島グリーンパレスで会員懇親会がもたれました。90名近くの参加者を得てにぎやかに会員の交流がなされ、瞬く間に時間が経過しました。福島の地酒コーナーを設けて遠来の皆さんからも好評を得ましたが、食欲旺盛な皆様にはメニューが少し不足気味であったかもしれません。

また懇親会の挨拶には、本学阿部正学長が駆けつけ、今大会の開催を地方で完成年度も迎えてない本学に任せてくれた学会に御礼を述べました。乾杯は本学の著名な音楽家三浦尚之先生の音頭で行われました。その後、岡村学会理事長の挨拶、ならびに新たな名誉会員の紹介があり、そのうちの一人神作博先生(中京大学教授)からご挨拶がありました。神作先生のこれまでの歩みが披露され、今後も研究に勤しむ気持ちを述べられました。

中締めの前に第73回開催校文京学院大学、第74回開催校帝塚山大学からそれぞれのご紹介とご挨拶がなされました。

以上、大会のご報告の終わりにあたり今大会の開催において、学内関係者はもとより多くの学外関係者にも大変なご助力を得ました。皆様方にこの稿を借りて心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。(福島学院大学福祉学部教授)

2005年度日本応用心理学会第72回大会総会において、次の方が名誉会員に推選されました。

神作 博氏(中京大学心理学部教授)

長塚 康弘氏(新潟大学名誉教授)

2005年度日本応用心理学会 学会賞・奨励賞について

委員長 垣本由紀子

学会賞: 該当者なし

奨励賞: 該当者なし

選考経緯: 本年度は学会賞推薦1件、ならびに奨励賞推薦2件がございました。選考委員会による第1次選考および、常任理事会による第2次選考を経て、慎重に審議した結果、本年度は該当者なしと決定いたしました。(実践女子大学教授)

認定「応用心理士」認定審査委員会 からのお知らせ

委員長 馬場 房子

日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会は、平成17年度前期分の資格認定審査を行った結果、以下の2名の方々を認定いたしました。

242 井上 洋平

243 太田さつき

なお、平成17年度後期分の受付は、平成18年2月末日まで延長して行っておりますので、資格要件を有しながら、まだ認定「応用心理士」の資格を取得されていない方は、ぜひ申請手続きをしてください。申請書類が手元にはない場合は、学会事務局にご請求ください。(亜細亜大学経営学部教授)

研修委員会報告

委員長 林 潔

本年度の研修委員会主催の応用心理学研修会は、例年のように9月の福島学院大学で開催された第72回大会の期間に行われました。

- ・研修会A マイクロカウンセリング
福原真知子先生(常磐大学特任教授)
- ・研修会B 応用心理学の道程を歩んで—医療、企業、教育、文化の面から—

大久保康彦先生

(國學院大学栃木短期大学名誉教授)

カウンセリング、心理療法の世界に長くコミットされている2人の先生のご経験を交えたお話も伺うことができました。

今回の研修委員会は、2006年9月の文京学院大学の大会期間に行われます。なお、今回の研修会のAとBとは、2日の日程に分けて開催する予定です。(白梅学園短期大学名誉教授)

倫理委員会からのお知らせ

委員長 藤田 圭一

日本応用心理学会倫理委員会では、かねてより検討しておりました倫理綱領細則(案)を常任理事会

に提出し、先般の常任理事会で承認されました。以下にその全文を掲載いたします。会員の皆様には、倫理綱領(会員名簿に掲載されています)を遵守して活動されますよう重ねてお願いいたします。

(日本体育大学教授)

日本応用心理学会倫理綱領細則

- 第1条 本細則は、日本応用心理学会倫理委員会規程第5条にもとづき、本学会会員の諸活動に対する倫理委員会の役割を取り決めるものである。
- 第2条 本学会会員の諸活動に、本学会倫理綱領に抵触する行為があったと認められる場合には、倫理委員会に調査委員会を設置することができる。
- 第3条 調査委員会委員は、倫理委員会委員長が指名する。
- 第4条 調査委員会は倫理委員会の要請により当該行為の事実関係を調査し、その結果を倫理委員会委員長に報告するものとする。
- 第5条 本学会倫理綱領に抵触する行為とは、年次大会時の研究発表に関するもの、機関誌「応用心理学研究」への投稿論文に関するもの、本学会認定「応用心理士」資格を付帯した活動に関するもの、その他、本学会会員としての活動に関するものである。
- 第6条 倫理委員会は、調査委員会からの調査報告にもとづき当該行為を審議し、倫理委員会としての意見を付して常任理事会に上申する。
- 第7条 本学会倫理綱領に反する行為が確定した場合は、学会からの除名、発表論文の無効(削除)、「応用心理士」資格の無効等の処分とする。
- 附則 本細則は、平成17年12月16日より施行する。

国際交流委員会報告

委員長 長塚 康弘

かねて準備を進めて参りました「第26回国際応用心理学会(2006年7月16日~21日、ギリシャ国・アテネ市)」への本学会企画シンポジウムの提案につきましては、福島学院大会の折、理事会および総会において報告を行ったところですが、その後10月30日に開催された国際交流委員会ならびに各担当者による合同会議において最終調整を終え、企画シンポジウムの内容を決定し、申込みの運びとなりましたので報告いたします。

なおこのシンポジウムは前回のシンガポール会議に続いて今次会議におきましても invited symposium として承認されたことが10月6日付けの e-mail により国際応用心理学会の Michael Frese 会長名により私および内藤教授宛に通知されました。

このたび決定をみた企画シンポジウムの内容は次のとおりです。presentation の順序については、今後、発表原稿の読み合わせを行うなどしたあと決定する予定です。

テーマ

Pressing social problems in recent Japan and workable solutions to them

現代日本が直面する社会問題とその解決策

Convenors:

(敬称略)

信州大学 内藤 哲雄
帝塚山大学 蓮花 一己

Participants:

Bullying and harassment in Japan

日本におけるいじめとハラスメント

東京大学 倉光 修

Was safety saga rolling away in public transportation in Japan?

—based on recent accidents/incidents in railroad and airlines—

最近の公共交通機関における安全・安心を考える

実践女子大学 垣本由紀子

PTSD following the Hokkaido Nansei-oki (South-West Coast) earthquake

北海道南西沖地震と被災者の PTSD

横浜国立大学 藤森 立男

The activities of cultic groups to seduce young people who wander in their lives and the psychological background

人生に彷徨する若者をそそのかすカルト集団の活動とその心理的背景

静岡県立大学 西田 公昭

Discussant

問題解決策とその効果評価—応用心理学的視点—

新潟心理学研究所 長塚 康弘

ご参考

今回の会議の詳細につきましては、「ニュースレター No. 11 (2004年12月10日発行)」等をご覧ください。(新潟大学名誉教授)

日本応用心理学会 第72回大会に参加して

閻 喜

私は、9月3・4日に福島学院大学で開催された日本応用心理学会第72回大会に初めて参加いたしました。今回私は、研究発表の社会、文化のところで、「日本人と中国人の人間関係スキーマの差異」というテーマでポスター発表をさせていただきました。1時間半という短い発表時間中に多くの方々が研究に対する新たな視点を教えていただき、また同じく社会、文化を中心として研究をしている方も意見交換ができ、私にとってとても貴重な体験になりました。学会で発表するのは初めてだったため、自分の研究の問題意識がうまく皆さんに伝わるかどうか

非常に不安でしたし、外国人として自分の研究内容をどういうふうにみんなに説明すればいいのか分かりませんでした。しかし発表してみると、多くの方々が話を聞いてくださったりいろいろと教えていただいたりしたことで初めに持っていた緊張は解消されました。今回の学会発表で皆様からいただいたご指摘を取り入れつつ、より良い研究を行っていきたいと思っております。また今度研究内容をより分かりやすく説明したと考えて問題点を強調したポスター作りを試みます。研究を始めたばかりの私はこれからも定期的に学会で発表を続けていきたいと考えております。

(信州大学大学院文学研究科
地域文化専攻修士1年)

日本応用心理学会 第72回大会に参加して

杉村 正子

今回の大会は、9月3日・4日の2日間福島学院大学にて開催されました。私は日本応用心理学会に入会して2年目となりますが、今回初めて大会に参加し、ポスター発表をさせて頂きました。

私の発表テーマは、「中小企業の労働安全衛生管理一体体制と安全衛生推進阻害要因について」でした。中小企業の労働安全衛生管理の調査研究を実施し、その結果を今回発表することによって、普段接することができない大学の方や研究所の方から貴重なご意見を頂くことができ、見落としていた点や今後の課題が見えてきました。また、学会で発表するにあたっては、何をどのように、そして何に焦点を当ててポスターを作製していけばよいのか発表の直前まで悩みましたが、今は良い経験だと思っています。そして、実際に他の発表者のポスターを見て、そして研究内容の説明を聞くことにより、発表方法

など多くのことを学ぶことができました。他分野を含め、多くの方からのご意見を頂いたり討論したりすることができるのは、日本応用心理学会だからだと思います。

また今回、常磐大学の福原真知子教授による「マイクロカウンセリング」の研修会に参加いたしました。私は、マイクロカウンセリングについて、聞いたことがある程度で詳細までは分かりませんでした。研修会に参加して、マイクロカウンセリングの技法の方法やトレーニング方法、そして実際に用いられる現場での有効性などを知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

日本応用心理学会は、心理学に関連する複数の分野から構成される大きな学会ですが、複数の分野で構成されている学会だからでこそ、一つの分野にとらわれない多くの知識や経験を身につけることができます。また、自分を成長させていく上で有効な学会だと思います。

(常磐大学大学院人間科学研究科修士課程2年)

研究室紹介

文京学院大学心理学科

松田 浩平

文京学院大学人間学部心理学科は、平成9年度に文京女子大学人間学部人間学科保育心理専攻と同福祉心理専攻の1学科2専攻として埼玉県のふじみ野キャンパスに開設されたことに始まります。平成11年度には大学院人間学研究科人間学専攻を設置し、さらに平成12年度には同学部同学科に心理学専攻を設置しました。翌13年度には文京女子大学から文京学院大学に校名変更し、大学院にも心理学専攻を開設しました。さらに平成14年度の改組を経て、現在の人間学部心理学科と大学院人間学研究科心理学専攻修士課程という体制が整い、平成17年度からは女子大から男女共学へと移り変わりました。また、大学院の人間学研究科心理学専攻では、心理学コースと臨床心理学コースの2つのコースが設置されています。心理学コースでは、人間の心理的特性に関する研究の充実と発展を目指しています。臨床心理学コースでは、臨床心理士第1種指定を受けており、臨床心理士の養成と実践的な研究指導を行っています。

文京学院大学人間学部心理学科および人間学研究科心理学専攻では、こころのメカニズムの解明に理

論的、実験的にアプローチする人材の育成を大きなテーマとして掲げています。心理学の基礎科目を充実させ、基礎知識と研究法、測定法、さらに実験方法の習熟に力を注いでいます。このために、脳波・血流・皮膚温測定などをはじめとする実験設備、複雑なデータ処理や実験機器の制御などに必要なワークステーション、高度な演算能力を有する大型サーバを設置しています。これらの設備を活用して柏木恵子研究科委員長と下仲順子学科長をはじめとする12人の専任スタッフにより、心理学の様々なテーマについて教育や研究に取り組めるようにしています。学生や院生の指導については、実験によるデータから現象を予測する手法と、心理学の基礎知識を習得した上で、興味のある分野を選択し、より深い研究に取り組めるようにしています。

文京学院大学心理学科は、まだ歴史も浅く十分な蓄積もない状況ですが、スタッフ一同であれこれと知恵を持ち寄って議論と試行錯誤の毎日です。今後の発展のためにも応用心理学会の諸先生方には共同研究をはじめとする様々な点でご指導やご鞭撻を賜れば幸いに存じます。(文京学院大学教授)

2006年3月11日(土)に『公開シンポジウム』を開催

お待たせいたしました。平成17年度の「公開シンポジウム」が、3月11日土曜日の午後(13:30~16:30 p.m.を予定)に東京富士大学(本館1階・メディアホール)を会場にして開催されることとなりました。

「長寿高齢社会における『義』の探究—自助の精神(こころ)と自助の技法(わざ)を加藤源重さんに聞く—」というのが今回の公開シンポジウムのテーマでありモチーフです。

「福祉工房あいち」の加藤源重さんは、平成3年3月に56歳で利き腕の右手を機械に巻き込まれ、親指の付根1cm程を残して他の4指をすべて失うという大怪我を負い、50年以上も使い慣れてきた右手をある日突然失ってしまいました。それは、人生がひっくりかえるほどの大打撃でしたが、「このまま人生に負けたくない!」「勇気と希望を持とう!」「前向きに生きよう!」と必死に自分に言い聞かせ、「明日に向かって生きよう!」と決意しました。

そして、自らの補助具の製作を開始しました。この製作活動が、今は多くの障害に苦しむ方々に喜ばれています。

今まで開発してきた補助具は、発明品として多くの賞の受賞に結びつき、そして「福祉工房あいち」は、その補助具の製作を支援する技術ボランティアの組織として、平成12年1月15日に発足し、今日まで加藤源重さんを中心として活動しています。

『義』とは、義援とか義侠とか正義とか大義とかの“義”であり、義眼とか義歯とか義肢とか義足とかの“義”でもあります。わが国が長寿高齢/少子高齢社会へと突き進むこの21世紀の初頭、福祉とは何か、相互扶助とは何か、そして行きつくところ、自助・自立・尊厳とはどういうことかを、早春の午後、一緒に探求・探究したいと思います。

「福祉工房あいち」で開発された補助具類も実際に“手で触れて”体感もしていただきます。たくさんのかたがたのご参画をお待ち申し上げます。

—追って「ポスター」が会員各位へと郵送されるはずですが、より詳しくは、その「ポスター」をご参照ください—

シンポジウム委員会

南 隆男(慶應義塾大学)

大橋 信夫(日本福祉大学)

第72回大会公式記録(変更および取り消し)

日本応用心理学会第72回大会準備委員会

第1日 9月3日(土)

ポスター発表について(変更)

下記発表は次のとおり変更になりました。

053-B-2 評価状況が反応時間課題に与える影響

文京学院大学大学院人間学研究科 田中 翔子氏は、
文京学院大学人間学部 長野祐一郎氏に変更。

連名発表者の追加

053-C-6 職業ラベルと顔のマッチング

連名発表者 山口大学教育学部 福田 廣氏

研究発表について(変更)

下記教室の座長は次のとおり変更になりました。

カーサ20 203教室

座長 南 隆男氏は、八戸大学人間健康学部人間健康学科 畑山 俊輝氏に変更。

第2日 9月4日(日)

パネラー追加について

公開パネルディスカッション「地域で取り組む自殺予防の諸条件」

福島学院大学 玄永 牧子氏

研究発表について(変更)

下記教室の座長は次のとおり変更になりました。

カーサ21 213教室

座長 弓削美鈴氏は、山梨大学大学院医学工学総合教育部人間環境医工学 小西 奈美氏に変更

以上

発行 広報委員会
委員長 藤田主一
日本応用心理学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8
(株)国際文献印刷社内
電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822